

# 平成26年度事業計画総括

近年の医療技術分野の状況を見ると、放射線技術学の進歩発展を掲げる本学会の果たす役割は今まで以上に重要なになってきている。医学、医学物理学や理工学等の幅広い分野の会員の連携ならびに活躍による放射線技術学の進歩発展、さらには新しい放射線技術学の創成を通して社会に貢献する学会とならねばならない。

平成26年2月に将来構想特別委員会より「多様化する社会の要請に応えて」と題して答申が出された。本答申は放射線技術学の進歩発展に寄与する目的を達成するために歩む際の中長期的な道しるべとなるものであり、本学会はこの答申に沿って放射線技術学の将来を見据えた事業展開を図って行く。また、国際化特別委員会より本学会における国際化の必要性、方向性が示され、国際化に向けてE C Rとの連携事業など具体的な活動の準備を開始する。また、放射線技術学の立場から福島原発事故に関連した対策も引き続き行う。

会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、平成26年度事業計画の総括を述べる。

## 1. 学術大会の開催

### 1) 総会学術大会の開催；公1

第70回総会学術大会を平成26年4月10日(木)～13日(日)の4日間、江口陽一大会長のもと、パシフィコ横浜会議センター他でJRCの運営により日本医学放射線学会総会、日本医学物理学会学術大会ならびに国際医用画像総合展との併催で開催する。

また、第71回総会学術大会を平野浩志大会長のもと、平成27年4月に開催(パシフィコ横浜会議センター他)に向け準備を進める。

### 2) 秋季学術大会の開催；公1

第42回秋季学術大会を平成26年10月9日(木)～11日(土)の3日間、小笠原克彦大会長のもと、札幌コンベンションセンターにおいてJRCの共催を得て開催する。

### 3) 国際放射線技術科学会議の開催；公1

国際シンポジウムとして第2回国際放射線技術科学会議(The 2<sup>nd</sup> international conference on radiological science and technology)を平成26年10月10日(金)真田茂大会長のもと、札幌コンベンションセンターで開催する。

### 4) 専門分科会の開催；公1, 公3

7つの専門分科会が独自の企画で教育プログラム他の内容により、春秋の学術大会にジョイントして分科会を開催する。会員の国際化を目的として、海外からの教育講演も積極的に企画していく。また、技術セミナー、研修会等の開催の他、学術委員会、教育委員会、地方部会等との共催事業や講師派遣等の学術活動も行う。

### 5) 地方部会事業への支援；公1, 公3

地方部会と学術委員会、教育委員会、専門分科会が協力して学術講演会の開催や研修会等を実施し、地域における学術活動を活性化させていく。

### 6) 公開シンポジウム・公開講座の開催；公1

公益法人としての事業の一環として、また本学会の学術領域を社会にPRする目的で今年度は2回(京都市、大宮市)開催する。

### 7) セミナー等の開催；公3

教育委員会、専門分科会、地方部会の協力のもとに、各種セミナー等を開催する。

## 2. 学会誌・刊行物の発刊；公2

### 1) 学会誌

学会誌第70巻第1号～第70巻第12号の12冊を毎月20日に定期発刊する。その中で論文特集号(第70巻11号「胸部領域関連論文」)も組み込む。学術研究発表から論文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。電子ジャーナルの発行を行う。また、学会雑誌の電子化に向けてワーキンググループを立ち

上げて和文誌の電子化のあり方を検討し、方向性を定める。

## 2) 英語論文誌

第7巻2号を平成26年7月20日に、第8巻1号を平成27年1月20日に電子ジャーナルおよび冊子体を発行する予定で、会員の積極的な投稿を喚起する。特に電子ジャーナルはインターネットを通じて早く広く公開される。第70回総会学術大会で土井賞表彰式ならびに受賞者講演を開催する。

## 3) 出版活動

放射線医療技術学叢書の発刊および増刷、放射線技術学教育関連図書の発刊の他、既出版物の販売促進も図る。

# 3. 委員会活動と一般事業

## 1) 企画委員会：共通

学会の組織改革について引き続き取り組む。また、学会の国際化に伴う諸事業について適切な学術運営への舵取りをサポートする。

## 2) 学術委員会：公1、公3

学術調査研究班（12班）ならびに市民参加の公開シンポジウム等を開催する。医療安全対策小委員会は、フォーラムの開催、放射線業務の安全の質管理指針・マニュアルの見直しを検討する。また、e－learningを想定した「医療安全講座」について検討する。医療被ばく評価関連小委員会は、医療被ばくに関連した情報を電子的に収集する場合に必要となる項目の抽出・選定を行う。

## 3) 教育委員会：公3

放射線技術学シラバスの再整備とe－learningの充実と動画の導入を行い、「Eシラバス」ならびに「e－learning」の定着を図る。第70回総会学術大会ならびに第42回秋季学術大会にて入門講座、専門講座を開催する。また、各種セミナー・研修会等を開催する。

## 4) 学術交流委員会：公5

国内においては、関連学協会および団体と積極的な交流を図る。海外においては、欧米、東アジア地域における関連学会との国際交流を今まで以上に推進する。特に、中華医学会影像技術学会と大韓放射線科学会の学術交流関係を継続し、一般会員相互の交流がさらに発展するよう努力する。また、海外短期留学生の派遣、国際研究集会への派遣等を継続して行う。関係法令等検討小委員会は、放射線管理フォーラムの開催、関係法令の改正および医療現場の対応に関する動向調査・検討を行う。標準化小委員会は、関係省庁、JIRAと協力し、医療画像機器の安全・性能・品質保証に係る標準化事業を推進するとともにIECとの整合性をもったJIS化作業を行う。医療情報関連小委員会は、医療情報フォーラムの開催ならびに関連学会および諸団体と連携を図り、主として標準化に係る規格・コード・ガイドライン等について協議、策定を行う。

## 5) 表彰委員会：公4

表彰規定に基づく各賞受賞候補者の選考・推薦ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。

## 6) 広報委員会：公2

学会事業ならびに放射線技術学に関係する事柄の学会内外への広報ならびにホームページに係る更新・運営等を行う。また、市民からの問い合わせに対応する。

## 7) 総務委員会：共通

総務・庶務に関わる事業の円滑運営が図れるよう、管理業務の統括と事務局運営の合理化・効率化を実現する。特に、会員管理の省力化と効率化を図るために会員情報管理のオンライン化を検討する。また、寄附の窓口を整備するとともに広報することで寄附行為を推進する。

## 8) 選挙管理委員会：法人

平成27・28年度議員選挙ならびに役員（理事のみ）定数選出選挙を行う。

## 9) 倫理審査委員会：共通

学会事業および学術活動に対する倫理上の問題について対応する。

## 10) プログラム委員会：公1

学術大会の質の向上について検討を行う。また、第42回秋季学術大会、第71回総会学術大会の演題発表

に関する企画、演題審査および演題群編成を行い、予稿集を完成させる。

**1.1) 国際化特別委員会；共通**

平成25年度に答申した国際化の方向を実践するための具体的な内容を検討し、学会ならびに会員の国際化を図る。

**4. その他；公5**

- (1) JRC理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。
- (2) 教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。
- (3) 日本診療放射線技師会と共に平成26年度公開合同セミナーを8月30日に開催する。